

## 令和3年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>理科研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>新しい時代を生き抜く資質・能力を育む理科授業 ～自律的に探究する子どもの育成を目指して～</p>
<p>育成を目指す 資質・能力</p>	<p>自然事象と探究の過程を往還し自律的に問題解決・探究する力</p>
<p>研究内容</p>	<p>中央教育審議会答申（平成28年12月）では、情報化やグローバル化など、変化が激しく将来の予測が困難な時代であってこそ、子どもが自信をもって自分の人生を切り拓き、多様な他者と協働しながら持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育成すること等、「生きる力」の現代的な意義を踏まえてより具体化し、教育課程を通じて確実に育んでいくことを期待し、学習指導要領が改訂された。</p> <p>理科においては、学習指導要領改訂の具体的な改善事項の一つとして、従来から重視されている探究の過程を通じた学習活動を、小・中学校及び高等学校を通じて行い、資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ること、さらに、探究の過程全体を児童生徒が主体的に遂行できるようにすることが挙げられた。</p> <p>こうした中、令和3年1月、中央教育審議会は、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」を取りまとめた。答申では、「Society5.0」「予測困難な時代」に、GIGAスクール構想による新たなICTを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくこと等を求めている。</p> <p>本研究会議では、理科の具体的な改善事項の一つに探究の過程が重視されたことに着目し、新しい時代を生きる子どもたちに、理科で育てたい資質・能力を検討する中で、子どもが単に探究の過程を通して理科の資質・能力を身に付けるだけでなく、新たな問題に出会った時に、他者と協働しながら自ら解決しようとする力や態度を身に付けることが大切だと考えた。そこで、子どもが主体的に探究の過程を進めるだけでなく、他者と協働しながら自ら探究の過程を調整する、自律的に探究する子どもの育成を目指す。これまでの理科研究会議による先行研究では、探究の過程の一場面に焦点化した研究が多く行われてきた。本研究会議では、これらの成果を踏まえつつ、探究の対象である自然事象と探究の過程を往還させること、GIGA 端末を活用して探究の過程における個別最適な学びと協働的な学びを充実させながら主体的・対話的で深い学びを効果的に実現することで、子どもが探究する価値や理科を学ぶ有用性を実感し、自律的に探究する授業デザインを検討していく。</p>